

## ○地域内フィーダー系統とは

**定義：**バスの停留所等において、地域間交通ネットワークと接続する（=バス停留所相互又はバス停留所と駅との近接・共有などで、乗り継ぎ円滑化が図られている）系統

「広陵元気号」は、近鉄高田駅やその他のバス停留所において、地域間幹線補助系統(主に、高田新家線、高田イオンモール線)と接続又は近接しているため、全路線がフィーダー系統に該当します。

## ○【項目1】地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

### 平成15年から平成21年まで

既存バス路線の休廃止⇒交通空白地の発生

### 平成21年から平成27年まで

広陵元気号の運行開始（運賃無料）

「予約型乗合運行」⇒「定時定路線運行」⇒運行計画及び車両の見直し

### 平成28年から現在まで

バリアフリー設備及び運賃収受に必要な設備を備えた車両を取得し運行を開始

広陵元気号の本格運行(有料化)⇒効果検証⇒新たな運行計画で運行(令和元年10月から)

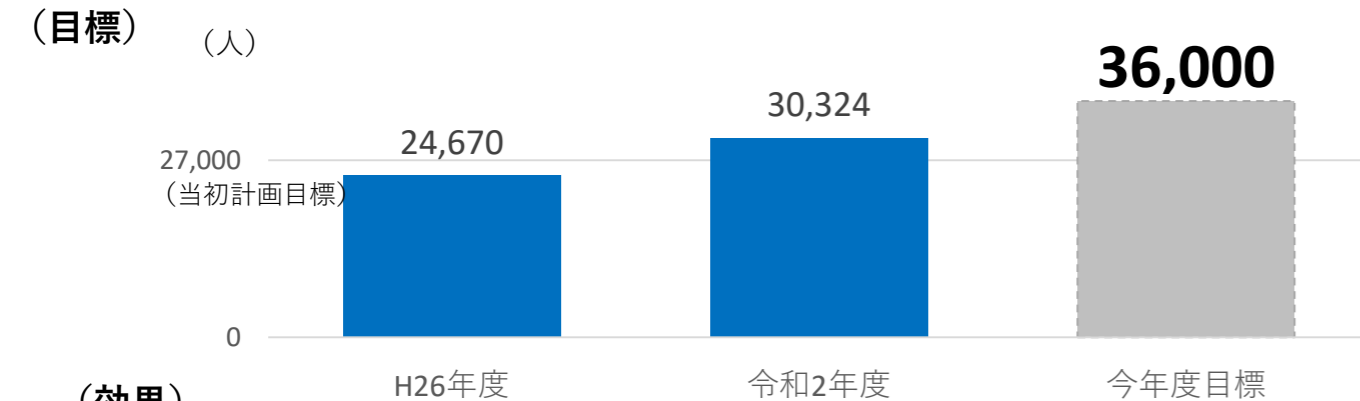
利用実態及び利用者要望を踏まえ、南部支線運行再編(令和3年10月から)

### 今後

運行に係る大幅な運行赤字が生じることが想定されるが、高齢化の進行とともに、必要性もより一層高まることから、地域公共交通確保維持改善事業として継続する。

## ○【項目2・14】地域公共交通確保維持事業及び車両の取得に係る定量的な目標・効果

昨年度から新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けているが、ワクチン接種開始により人々の外出機会の増加や南部支線再編により利用者の増加が予想されるため、前年度の利用者数の約120%を目標値とする。



**中央幹線：**近鉄高田駅から国保中央病院までを結び、住民の通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。

**北部支線：**広陵町の北部地域及び西部地域から中心部である各公共施設や商業施設に連絡し、住民の買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。

**南部支線：**近鉄高田駅のほか、公共施設や商業施設に連絡し、住民の通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に必要な移動が確保される。

**車 両：**運行サービスの向上が図られている。

## ○【項目3】目標を達成するために行う事業

# 12の事業

- バスの乗り方教室 / 広陵元気号との政策間連携
- 広陵元気号の標語募集 / お買い物ポイントカード制度の継続
- ICカード決済継続運用 / ラッピング車両で運行継続
- 運転免許返納事業継続運用 / 広陵元気号応援サポーター制度(予定)
- キャッシュレス決済(PayPay)の継続運用 / 運行再編に伴う時刻表の作製
- 広報挟み込みによる無料乗車券の配布
- バスロケーションシステム継続運用

## ○【表1】地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者（地域内フィーダー系統）

- ①中央幹線**  
近鉄高田駅で地域間幹線補助系統「高田五條線」「高田イオンモール線」「高田新家線」と接続する。（近接）
- ②北部支線A、③北部支線B**  
エバグリーン広陵店前で地域間幹線系統「高田イオンモール線」「高田新家線」と接続する。（近接）
- ④南部支線A、⑤南部支線B**  
近鉄高田駅で地域間幹線補助系統「高田五條線」「高田イオンモール線」「高田新家線」と接続する。（近接）
- ⑥南部支線C、⑦南部支線D、⑧南部支線E**  
大塚、安部、広陵平尾で地域間幹線系統「高田イオンモール線」「高田新家線」と接続する。（近接）

奈良交通株式会社が運行

## ○【表6】車両の取得計画の概要（地域内フィーダー系統）

- 小型バス 1 台 (ポンチョ) → ノンステップ型、スロープ付、乗車定員 33 人  
平成28年10月リース  
運行する補助対象系統名：中央幹線
- 小型車両 3 台 (ハイエース) → 乗車定員 13 人  
平成28年10月リース  
運行する補助対象系統名：北部支線及び南部支線

## ○【項目5・6】地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者及び補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

$$\text{運行委託料} - \text{運賃収入} - \text{国庫補助金} = \text{町負担分}$$

奈良交通株式会社が収受

## ○【項目18】利用者等の意見の反映状況

# 4つの意見

- ・広陵町地域公共交通活性化協議会
- ・住民アンケート
- ・利用者アンケート
- ・住民ワークショップ